
















痛い虫（ハチ）

出典：今村化学工業白蟻研究所
http://www.imamuranet.com/index.html を改変(2017.12.10)

オオスズメバチ	キイロスズメバチ	コガタスズメバチ	モンスズメバチ	クロスズメバチ	フタモンアシナガバチ	セグロアシナガバチ	キアシナガバチ	ヤマトアシナガバチ	キボシアシナガバチ	コアシナガバチ	ムモンホソアシナガバチ
											
常に人を恐れず、巣に限らず餌場を守る場合にも威嚇・攻撃性は格段に強く、その性質は単独時でも変わらない。眼前で5秒前後ホバリングしつつ大顎をカチカチと鳴らして威嚇したあとそのまま攻撃に移る。直線的に体当たりして刺す場合や、曲線的にフェイントをかけて顔などを狙ってくる場合がある。痛みは虫歯の激しい疼痛程度で、徐々に軽減しつつ2、3日続く。多数個体に刺されると致命的である。	オオスズメバチほどの攻撃性はないが、広く生息するため被害件数は最も多い。	オオスズメバチより小さくておとなしい。巣は小型で多くは梢にあり、近くで刺激すると攻撃される。	キイロスズメバチよりも攻撃性は低い。日没後もしばらくは行動できる。	迷い込んだ室内で出口を探して飛び回る姿を見ることがある。小形でおとなしいが、スズメバチ類の仲間であり毒針を持つ。巣は多く地中にあり、時に屋内屋根裏・壁内に営巣する。	少し小型で軒下に巣を作る最も普通のハチであったが、ここ数年間姿を消している。巣のすぐ近くに急に近づいたりあるいは取り込まれた洗濯物にハチが付いていた場合などに刺されることがある。瞬間電撃的な痛みが走ってしばらく続き、水泡を生じる。転倒個体もつかまされると反射的に刺す反応が残っている。最後まで生き残り個体の飛来に気を配る。	フタモンアシナガバチより一回り大きく黄色っぽい。これも軒下によく巣を作り、前種不在の今は最も身近なアシナガバチとなっている。	セグロアシナガバチと同大、くびれ前背面に2黄帯があり、山地性である。	あまり多くない。繁み・草むら・軒に巣を作る。攻撃性は他のアシナガバチに比べて弱いとされる。イラクサより少し強い痛みが短時間で消えるが、腫れは数日続く。セグロアシナガバチより少し小さく腹部のくびれ前に黄色い縦紋が2個ある点で識別する	フタモンアシナガバチに同じ。山地性で木の枝・葉に巣を作る。よりおとなしいが、巣を刺激すると刺される。	山地性の小形のハチで草むらや藪の枝に巣をつくり、おとなしいが近くで巣を刺激すると刺される。	軒や庭木・草むらに巣を作り、剪定や草刈の際によく刺される。痛みは数分から数日続く（被害部位による）。周りが腫れたあと硬くなりかゆみと共に数日間残る。
セイヨウミツバチ	ニホンミツバチ	刺されることはまずないが、屋内の屋根裏などに巣を作られたり、分封（巣分かれ）群が2、3日ベランダなどを占領することがある。近年新系統の殺虫剤が一因とされる死亡例が増え、路上や花上で働きバチの死骸を散見する。									
											

オオスズメバチ
学名 (*Vespa mandarinia*)



古世界の住人・川崎悟司イラスト集
http://www.geocities.co.jp/NatureLand/5218/